


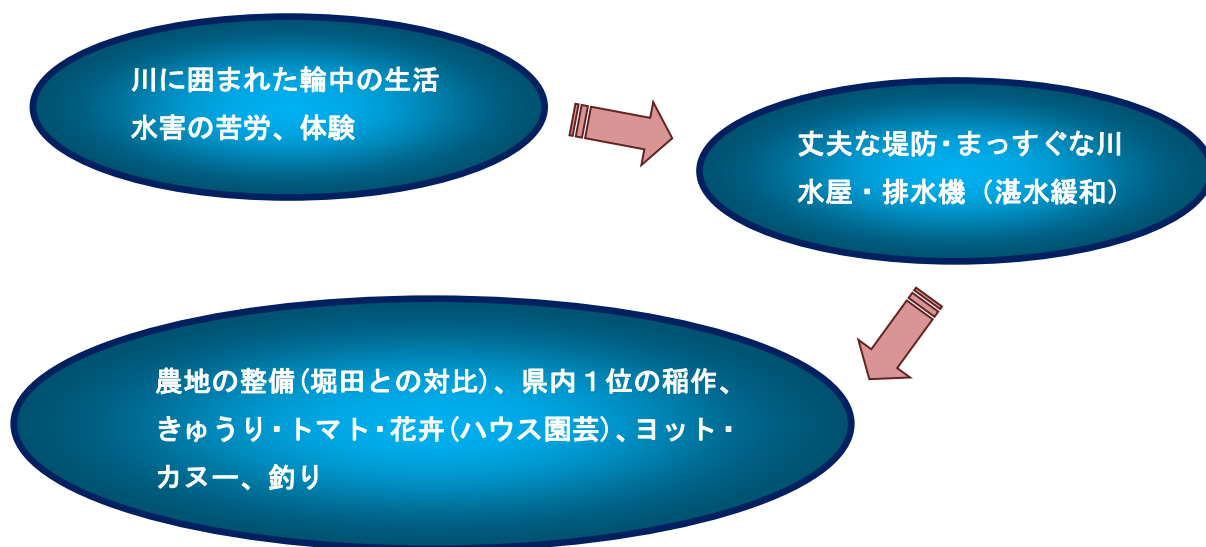


小学5年社会科「土地の低い地域」へのアプローチ

◆「輪中」・「水とのたたかい」とは・・・

-  **外水への対策** 川の水が堤防を越えたり、決壊したりして起こる水害をふせぐ
-  **内水への対策** 土地が低いために輪中内に水が溜まって起こる冠水被害をふせぐ
-  **水害に備える暮らし** 水屋・助命壇・上げ舟などに見られる人々の知恵と工夫

◆モデル学習として：「高須輪中」の学習のすすめ方



海津市歴史民俗資料館の歩き方

見学のポイント

屋外展示物

◇堀田（ほいた）



面積 800 m²のミニ堀田を復元展示。
江戸時代からつづく米作りの方法で、耕地（掘上げ田）と水路（掘漬れ）から成る田んぼ。高須輪中では、昭和 30～40 年代に行われた土地改良事業により姿を消しました。
網の目のようにめぐらされた水路を田舟で行き来し、「田舟農業」とも。



◇排水機（はいすいき）

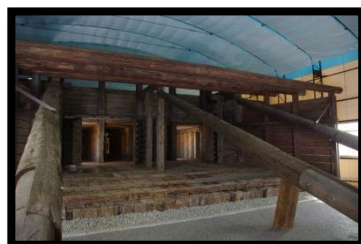


輪中内に溜まる農業排水や生活排水を、動力（モーター）を利用して堤防の外へ排水するポンプ。これは 1927 年～1981 年の間、揖斐川への排水に使われていました。

※高須輪中最大規模の「高須輪中排水機場」は見学可能

http://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu/sisetu/takasu_outline.html

◇金廻四間門樋（かなまわりしけんもんぴ）



動力による排水機が設置される前は、輪中内の排水（悪水）は「自然排水」に頼っていました。この樋門は、明治 20 年前後に築造された木造の排水施設であり、当時の土木技術のすばらしさや、排水の苦勞がしのげられます。（希望者は見学可能。約 20 分）

◇資料館入口の石垣



高須輪中の長良川右岸堤の高さは約 9メートル。資料館の石垣（外装）は長良川右岸堤とほぼ同じ高さなので、堤防の高さを実感でき、堀田から見上げると「低地」「輪中」を理解するのに役立ちます。

館内展示物

☆あらかじめ精選し、児童に見学の視点を指導しておくとい良いです。

☆解説パネルの脇に児童向けのやさしい解説を掲示してあるので、それを学習の手がかりに。

◇高須輪中地形模型（説明約 7 分）



実際の 2400分の1 のスケールで、画像とナレーションとともに明治の河川改修前と現在の地形との比較が学べるので、児童にぜひ見せたい展示物のひとつです。川幅を広げ、川の流れを直線化し、支派川を締め切った改修工事について理解を深めます。

◇輪中のなりたち（第 1 展示室）

土や砂が堆積した微高地に人々が住みつき、しだいに堤を築いて「輪中」が出来上がっていく過程を図で説明しています。明治初期には岐阜県南部を中心に、約 80 の輪中に分かれていました。



◇水屋のある屋敷（第1展示室）



石垣の上に建てられた母屋や、屋敷内にさらに高くつくられた水屋について、模型やパネルで紹介しています。（木曾三川公園内に復元された「輪中の農家」「水屋」とあわせて見学すると、より理解が深まります。）また「水屋」を持てなかった農民のための「助命壇」（現地見学は可能）についても触れています。

◇薩摩藩御手伝普請目録見絵図（第1展示室）

赤（美濃）・黄（尾張）・白（伊勢）に色分けされた、宝暦治水工事の場所を示した絵図。当時の入り組んだ川の流れや輪中の地形が分かります。※薩摩藩による宝暦治水の内容は、教師の補説が必要。



第1展示室⇒

◇明治の河川改修（第1展示室）



オランダ人技師ヨハネス・デ・レーケが指導して行った治水工事。デ・レーケの胸像や三川分流計画図（複製）が展示されています。この工事で木曾三川の川筋をどのように変えようとしたのかが見てとれます。

◇水防活動（第1展示室）



輪中には地域の水防団を兼ねた消防団組織があり、いざという場合に備えて資材の備蓄や点検、水防訓練などを行っています。常に「水害への備え」を忘れないで生活していることが分かります。

水防工法のジオラマ⇒



◇蛇籠（じゃかご）＜復元＞



コンクリートなどが無かった時代、竹で編んだ籠に石を詰めて、堤防の基礎や護岸工事の材料にしました。長いものは10メートル以上もあり、宝暦治水工事のときにも竹や石の調達に苦労したと伝えられています。

◇堀田風景（第2展示室）



同じ場所の年代の違う写真を見比べ、堀田から区画整理された水田への変化を見ます。また農作業の様子や農具の実物により、「堀田（田舟）農業」から「機械化農業」への移り変わりが実感できます。

◇農家の復元（第2展示室）



昔の農家の内部を一部復元してあり、避難用の「上げ舟」の実物も見ることができます。

かまどやちゃぶ台、踏み天井の工夫など当時のくらしを体験できます。別に「上げ仏壇」のミニチュア模型もあります。 上げ舟の展示⇒



◇水害の様子

過去の水害の様子から、水の恐ろしさを感じてもらい、何度となく被害に見舞われてきた輪中の人々の苦勞をしのびます。

昭和 27 年の水害の様子⇒



◇水防倉庫



堤防の近くにあり、水防作業に必要な道具類や土のう袋や杭・丸太などの資材が保管されています。高須輪中内には 23 棟あり、海津市全体では 31 棟あります。



百聞は一見にしかず！

☆「輪中」を学ぶみなさんへ☆

海津市歴史民俗資料館では“貝塚と古墳”、“輪中・低地のくらし”、“高須藩”をテーマに、展示や教育普及活動を行っています。

中でも、学習単位としての「低地のくらし」「水とのたたかい」は、テキストだけでは理解しづらい面があります。そこで、できるだけ具体的な資料を見ていただいたり、実物に触れていただくことで、よりよい学習成果が得られるよう努めています。

今回作成した学習の手引きを手がかりとして、ぜひ一度資料館を訪ねていただき、理解を深めていただけたら幸いです。そして個別の質問やより詳細な内容については、電話・FAX・手紙・電子メール等でお気軽にお尋ねください。お待ちしております。

〒503-0646 岐阜県海津市海津町萱野 205-1

海津市歴史民俗資料館



海津市ホームページ

Tel 0584 (53) 3232 / Fax 0584 (53) 3231 メールアドレス (代表) shiryokan@city.kaizu.lg.jp